



下の間より前庭を眺める。梁材は方向性を出すため3尺ピッチで渡している。開口部の木製サッシは引込み可能。



室内の延長として使用出来るデッキ。デッキ材の幅は室内フローリング幅と合わせている。



上の間より前庭までは4段階に段差が設けてあり、奥の空間からも視線が外に抜けるように計画している。



外壁の下見板貼りと木屏により、周辺に対して柔らかな印象の佇まいとしている。



上の間。家族全員が多目的に利用出来る4.0Mの大テーブルを計画している。



2階吹抜け、ガラス面には貫を設置し、日除けと防犯を兼ねて計画している。



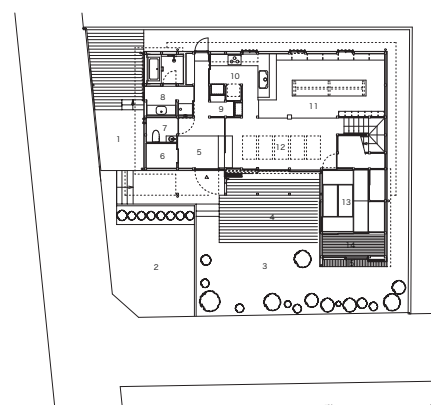
神代杉天井によりコントラストが効いたゲストルーム。



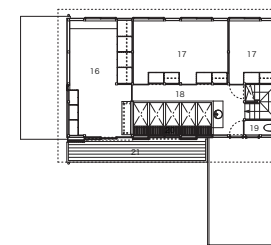
玄関土間の杉板。室内外の境界を曖昧にしている。



夜景。防犯性を兼ね備えたルーバー引き戸より室内の光が柔らかく漏れる。



1階平面図 1/200



2階平面図

- 1. 駐輪場
- 2. 駐車場
- 3. 前庭
- 4. フロア
- 5. エントランス
- 6. 納戸
- 7. トイレ
- 8. 洗面室
- 9. バントリー
- 10. キッチン
- 11. 上の間
- 12. 下の間
- 13. ガスルーム
- 14. 広縁
- 15. スレ縁
- 16. MBR
- 17. 子供室
- 18. 廊下
- 19. トイレ
- 20. キャットウォーク
- 21. 布団干置き

下高井戸の家

木組みによる都市型住宅

伝統工法による「木組み」の構造形式を取りながら、現代的な都市型住宅を目指した計画です。伝統的な民家が備えている空間の力強さや開放的な性質を外部空間との関係性にまで拡張し、計画やデザインに取り入れています。1階にはパブリックな性質の空間をゾーニングし、ワンルームの構成としています。前庭から見一番奥にある上の間より、下の間、デッキ、前庭まで順に4段階に床段差を設けることにより、どの場所からも前庭へ視線が抜けるように断面を構成しています。梁材は3尺ピッチにて前庭に対して直行方向に渡して、外部空間へ意識が向くように計画しています。開口部のサッシはW1820の木製引込み戸とし、閉め切った状態でも縦框が柱と重なるよう、開放時は戸袋内に引き込めるように計画し外部への視界を遮らないように配慮しました。これらの操作により各部屋からは外部空間との緩やかな繋がりが意識され、内外の境界は曖昧になり、内部空間は外部空間にまで拡張されます。構造壁には「貫」構造を採用し真壁漆喰塗りとすることで、地震時には建物全体が柔らかく対応し揺れを吸収出来る構造形式を採用しています。2階吹抜け部のハメ殺し窓には貫を現して設置し、意匠的な表現だけでなく日除けと防犯機能を併せ持たせることで、構造材だけではない貫の利用方法を模索しています。接合部には建築基準法で規定される箇所には金物を用い現代の耐震基準を満たしつつ、その他の箇所には木材本来の性質に合った伝統的な継手工口を多用しています。「伝統的な民家の空間性を外部空間まで拡張する」こと、「伝統的な構造形式に新たな性能と機能を付加する」ことで、木架構に柔らかく包まれた現代的な都市型住宅が成立するのではないかと考えています。